

1. 令和7年度 1次試験結果

図表1 1次試験の結果の推移

	R3	R4	R5 ^{※6}	R6	R7
申込者数	24,495	24,778	25,986	25,317	26,211
受験者数① (A) ^{※1}	18,662	20,212	21,713	21,274	21,678
受験率 ^{※2}	76.2%	81.6%	83.6%	84.0%	82.7%
受験者数② (B) ^{※3}	16,057	17,345	18,621	18,209	18,360
合格者数 (C)	5,839	5,019	5,521	5,007	4,344
科目合格者数 (D)	9,278	9,485	10,146	11,210	10,629
合格率 (C) / (B)	36.4% ^{※7}	28.9% ^{※8}	29.6% ^{※9}	27.5% ^{※10}	23.7% ^{※11}
科目合格率 (D) / (A-C) ^{※4}	72.4%	62.4%	62.7%	68.9%	61.3%
(合格者数+科目合格者数 (C+D)) / (A) ^{※5}	81.0%	71.8%	72.2%	76.2%	69.1%

※1 受験者数①：1科目でも受験した人数。

※2 申込者数に占める受験者数①の割合。逆に言うと、100からこの値を引いた値が申込者数に占める1科目も受験しなかった者（全科目を欠席した者）の割合となる。R3はコロナ禍で受験料の返還等の措置が講じられたため、受験率が低くなっている。

※3 受験者数②：欠席科目がない者の人数。

※4 科目合格者数 / (受験者数① - 合格者数) : 1科目でも受験した人数から合格者数を差し引いた人数 = 1科目でも受験した不合格者の中に占める科目合格者の割合。

※5 (合格者数+科目合格者数) / 受験者数① : 1科目でも受験した人数に占める合格者と科目合格者の割合。逆に言うと、100からこの値を引いた値が、1科目でも受験した方の中で、不合格となり、かつ1科目も科目合格しなかった人数の割合となる。例年、2~3割存在する。

※6 那覇地区を対象とした実施した再試験を除く（以下、同じ）。

※7 中小第22問（設問1・2（合計5点））は全員正解。

※8 運営第3問（2点）、情報第6問（4点）は全員正解。

※9 運営第14問（2点）と第31問（2点）は全員正解。

※10 運営第13問（3点）、情報第19問（4点）は全員正解。

※11 運営第33問（2点）、情報第12問（4点）は全員正解。

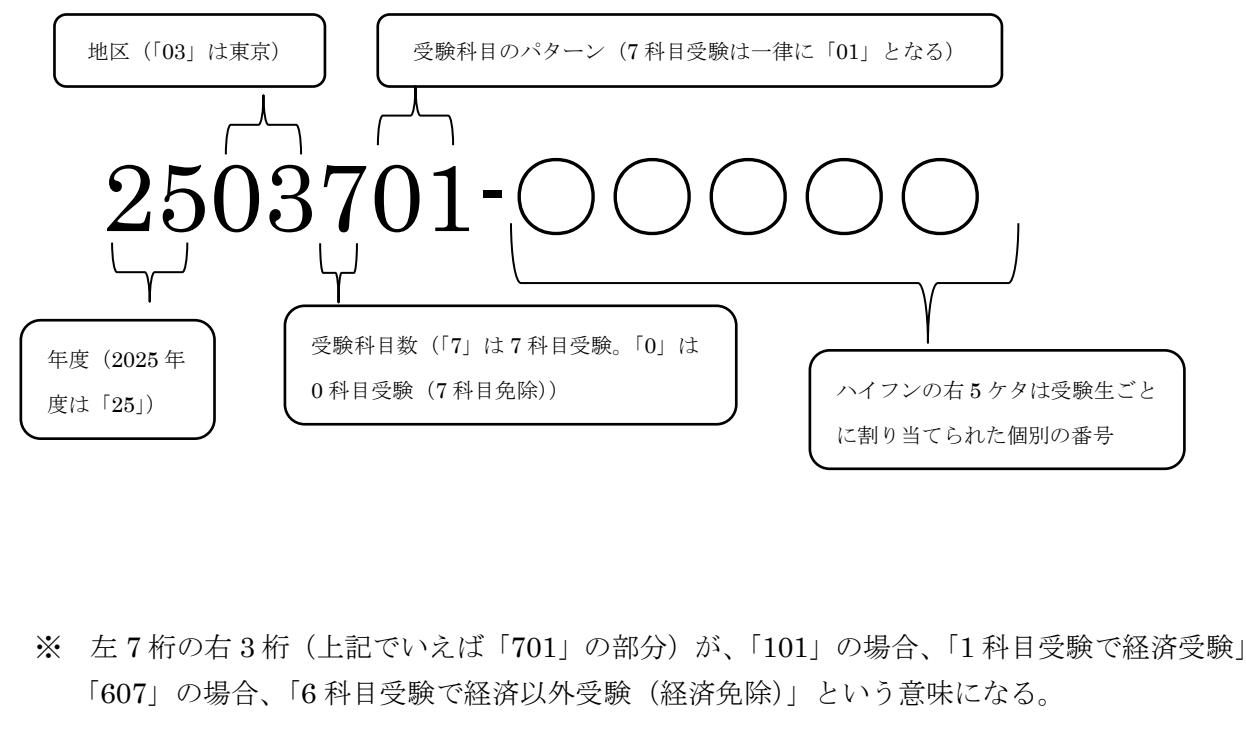
(1) R7の傾向（対前年）

- 1) 申込者数：3.5%増⇒R5からR6にかけて減少したが再び増加に転じた。26,000人超えは史上初。
- 2) 受験者数②：0.8%増⇒R5からR6にかけて減少したが再び増加に転じた。
- 3) 合格者数：13.2%減⇒R5以降は減少傾向。5,000人を下回ったのはR1（4,444人）以来。
- 4) 科目合格者数：5.2%減⇒R6まで増加傾向にあったが、減少に転じた。
- 5) 合格率：3.8%ポイント減⇒25%を下回ったのはH30（23.5%）以来。
- 6) 「合格基準の弾力化」（後述）は行われず。

<補足>

受験番号の左（ハイフンの左）の7桁で、受験科目数（および受験科目）がわかるようになっている。

例)



●参考：「合格基準の弾力化」について

1次試験は科目合格制を併用しており、年度間で生じる科目毎の出題内容の難易度差を調整することを「合格基準の弾力化」という。過去の実績は以下のとおりである。「全員正解」（いわゆる没問）との違いは、ある問題が全員正解になつても、その科目的満点は100点変わらない。それに対し、弾力化が行われると満点が変わる。例えば、一律（全員）4点加点が行われると、その科目的満点は104点となる。

H22 経済（一律4点加点）

H25 経済（一律4点加点）

H28 情報（一律4点加点）

H30 法務（一律8点加点）

なお、H28は、全体の合格基準が60%→59%に引き下げられた。これは、7科目受験の場合、本来は満点（700点）の60%である420点が合格ラインとなるが、これが59%の413点に引き下げられた。上述のとおり、H28は情報が一律4点加点されたため、実質的には409点が合格ラインとなつた。それでも、H28の1次試験の合格率は17.7%であり、弾力化が行われなかつた場合、合格率は相当に低くなつたものと考えられる。

●参考：全員正解（いわゆる没問）について

過去5年間における全員正解の状況は以下のようになっている。

	科目	問題	配点	正答率※1	ランク※2
R3	中小	第22問（設問1）	2点	76%	B
	中小	第22問（設問2）	3点	36%	D
R4	運営	第3問	2点	25%	D
	情報	第6問	4点	38%	D
R5	運営	第14問	2点	31%	D
	運営	第31問	2点	74%	B
R6	運営	第13問	3点	27%	D
	情報	第19問	4点	16%	E
R7	運営	第33問	2点	33%	D
	情報	第12問	4点	23%	D

※1 TACデータリサーチによる正答率。

※2 ランクは、A（正答率80%以上）、B（正答率60%以上80%未満）、C（正答率40%以上60%未満）、D（正答率20%以上40%未満）、E（正答率20%未満）を意味する

相対的に正答率が低い問題が全員正解となつてゐるため、その影響が大きい。例えば、R7は、単純計算すると、運営と情報を受験した方の52%（67%×77%）が、6点加点されたことになる。

2. データリサーチに基づく令和7年度1次試験分析

(1) 平均点

図表2 科目別の平均点の推移

	R3	R4	R5	R6 (A)	R7 (B)	差異 ^{*1} (B) - (A)	過去5年 間の平均
経済	65.1	55.6	59.9	57.6	57.4	▲ 0.2	⑤59.1
財務	66.2	56.8	58.9	57.1	52.8	▲ 4.3	⑥58.4
経営	66.8	61.4	61.1	67.7	58.4	▲ 9.3	①63.1
運営	63.2	62.7	58.1	63.5	58.6	▲ 4.9	②61.2
法務	56.7	66.4	63.7	56.1	57.2	1.1	④60.0
情報	54.5	60.4	55.9	55.6	54.6	▲ 1.1	⑦56.2
中小	56.8	59.2	63.6	54.6	68.6	14.0	③60.6
平均	61.4 ^{*3}	60.4 ^{*4}	60.2 ^{*5}	59.0 ^{*6}	58.3 ^{*7}	▲ 0.7	59.9
60点以上の 科目数	4	4	3	2	1	▲1	2.8
合格率	36.4%	28.9%	29.6%	27.5%	23.7%	▲3.8%ポイント	29.0%
試験日 ^{*2}	8/21・22	8/6・7	8/5・6	8/3・4	8/2・3	—	—

※ データ総数：R3：2,019人、R4：1,762人、R5：1,730人、R6：1,821人、R7：2,281人。

※ 「過去5年間の平均」の○数字は高い順。各年の網掛けは最高、下線は最低を表す。

※1 「差異」は小数点第2位を四捨五入しているため、小数点第1位の差異とは必ずしも一致しない。

※2 R3は東京オリンピックの関係で日程がイレギュラーとなっている。

※3 中小第22問（設問1・2（合計5点））の全員正解後の平均点。

※4 運営第3問（2点）、情報第6問（4点）の全員正解後の平均点。

※5 運営第14問（2点）と第31問（2点）の全員正解後の平均点。

※6 運営第13問（3点）、情報第19問（4点）の全員正解後の平均点。

※7 運営第33問（2点）、情報第12問（4点）の全員正解後の平均点。

- 1) R7の全体の平均点は、R6に比べ0.7点下がって58.3点となり、2年連続で60点を下回った。
- 2) 科目別に見ると、R7は法務、中小を除く5科目がR6に比べて平均点が下がった。特に経営の低下が大きいが、経営はR6の平均点の最高科目であった。また、運営も下がっている。この2科目はR6の平均点が60点以上であり、出題者が意図的に難化させた可能性が示唆される。
- 3) R7は平均点60点以上の科目が中小の1科目のみで、過去5年間では最少となった。
- 4) R7で平均点が最も高かった科目は中小で、68.6点という平均点は過去5年間の全科目を通じて最高となっている（次位はR6の経営の67.7点）。
- 5) R7で平均点が最も低かった科目は財務で、52.8点という平均点は、過去5年間の全科目を通じて最低となっている（次位はR3の情報の54.5点）。
- 6) R7の平均点の最高と最低の差は、中小（68.6点）と財務（52.8点）の差の15.8点となる。R6の平均点の最高と最低の差は経営（67.7点）と中小（54.6点）の差の13.1点であったので、最高と最低

の差（科目間の難易度の差）が拡大したことになる。

7) 過去5年間の平均で見ると、最高は経営（63.1点）、最低は情報（56.2点）となる。

8) 基本的に、前年の平均点が最高だった科目は平均点が下がり、平均点が最低だった科目は平均点が上がる傾向がある。

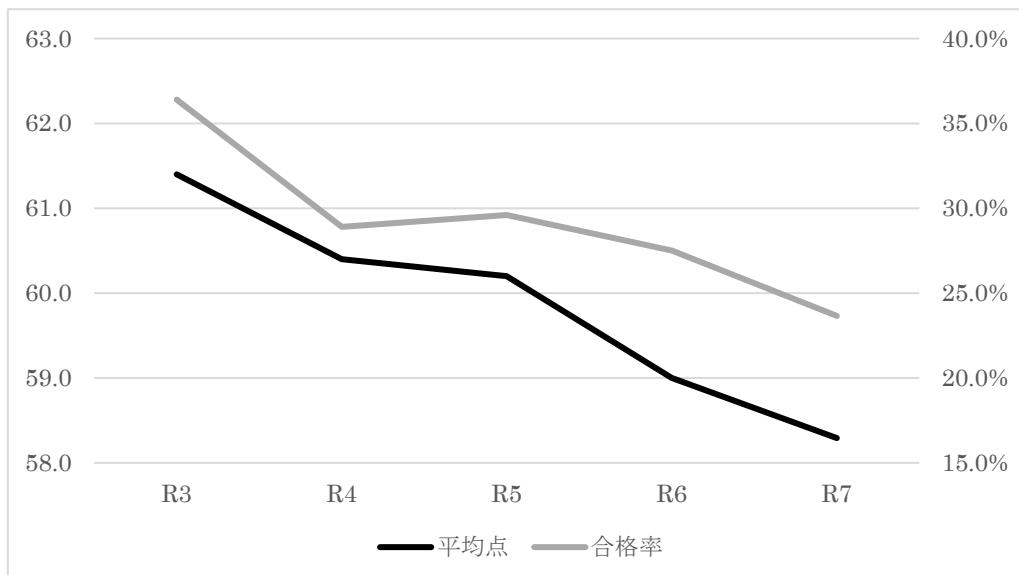
9) 過去5年間の各科目の平均点の標準偏差（バラツキ）を算出すると下表のようになる。

経済	財務	経営	運営	法務	情報	中小
3.28718725	4.3975448	3.572898	2.362541	4.209228	2.1697926	5.0078339

標準偏差で見ると、中小のバラツキが最も大きく、難易度の変動が大きい。逆に、情報のバラツキが最も小さく、難易度の変動が小さい。

※ データリサーチは性格上、ボーダーライン上の受験生が多く参加する。そのため、必ずしも受験生全体のデータを正確に反映しているわけではない点に注意が必要である。

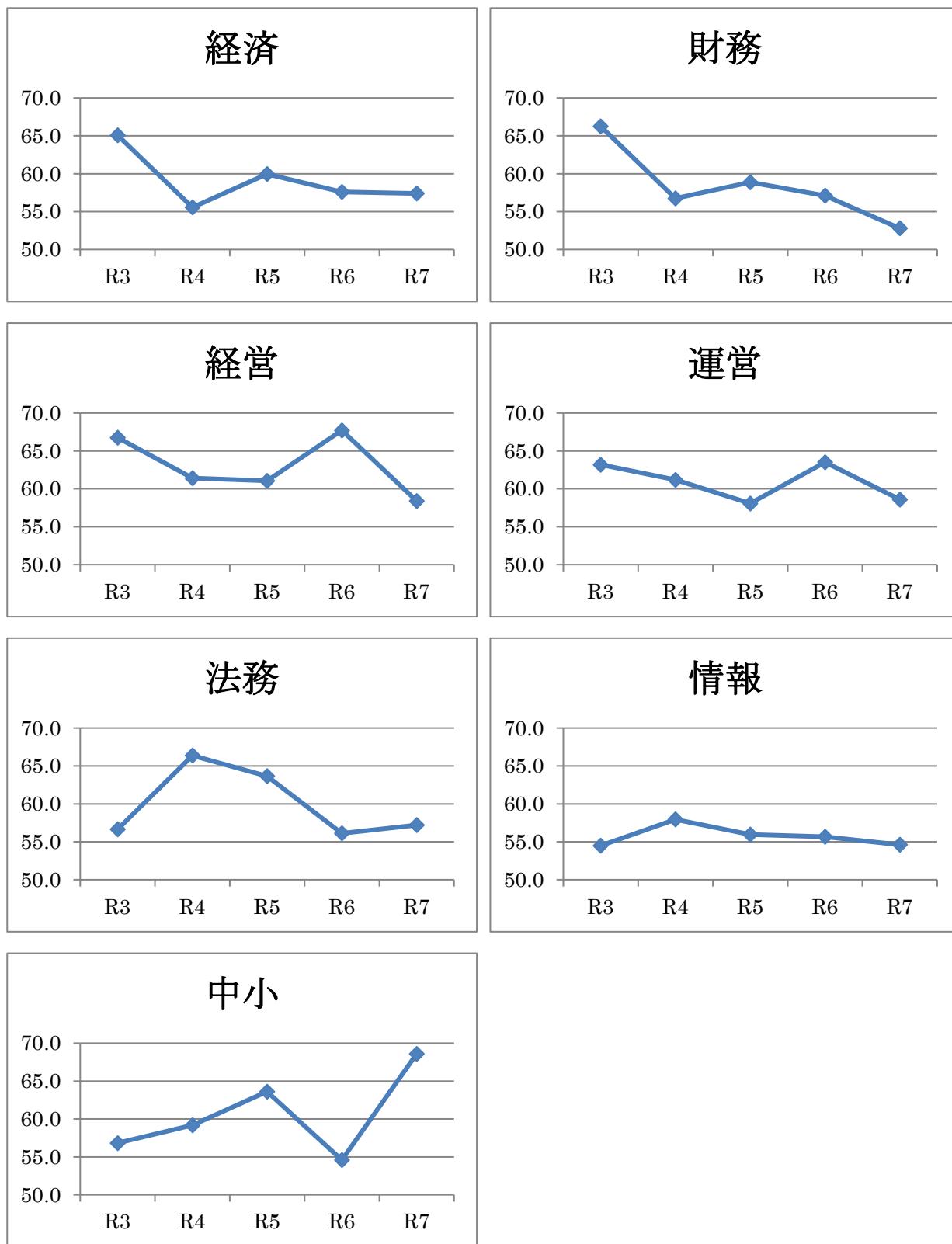
図表3 平均点（データリサーチ）と合格率の推移



1) おおむね、平均点（データリサーチ）と合格率は同じような動きを示している。

(2) 科目ごとの平均点の推移

図表 4 科目ごとの平均点の推移



(3) 標準偏差

図表5 標準偏差の推移

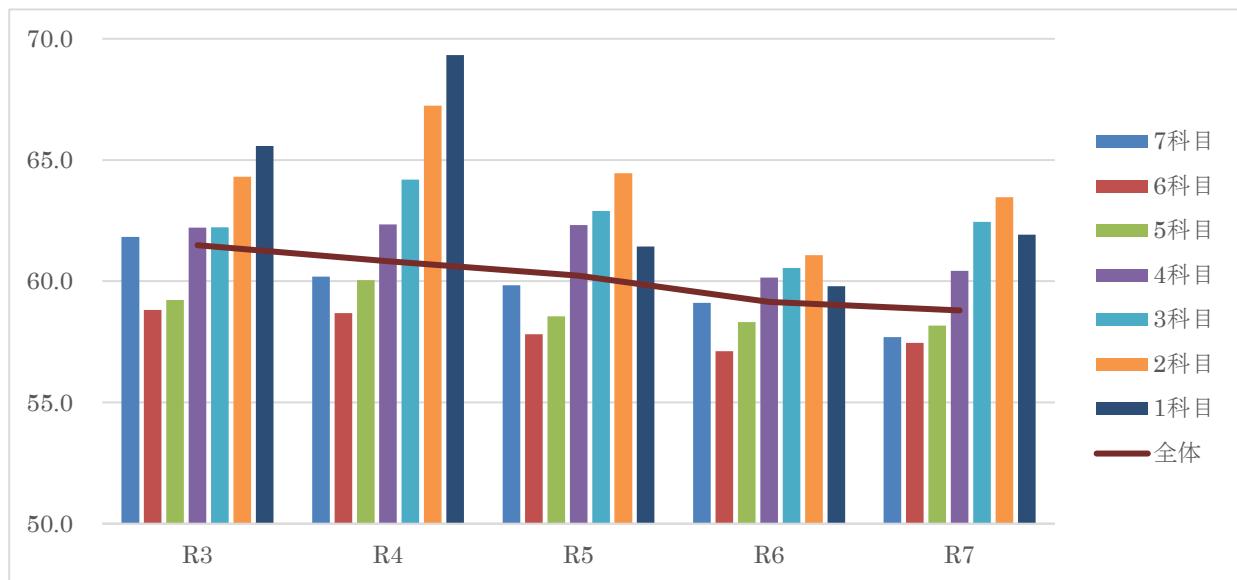
	R3	R4	R5	R6	R7	過去5年間の平均
経済	13.584	12.531	15.296	14.392	13.753	②13.911
財務	13.864	14.588	14.308	14.908	12.675	①14.069
経営	10.041	10.081	10.664	11.249	10.301	⑦10.467
運営	10.083	11.524	12.692	9.787	11.605	⑤11.138
法務	12.081	13.451	12.741	11.432	11.623	④12.266
情報	12.113	12.283	13.607	12.528	12.062	③12.518
中小	9.901	11.613	10.380	10.749	12.193	⑥10.967

※ 当該年度のデータリサーチ参加者の得点の標準偏差のこと。○数字は高い順。

- 1) 標準偏差（バラツキ）は、受験生の得意・不得意の目安となる。過去5年間の平均で見ると、標準偏差が最も大きい科目は財務（14点台）、次いで経済（13点台）となっており、この2科目は、受験生の得意・不得意の差がつきやすい科目といえる。
- 2) 逆に、標準偏差が小さい科目は、順に経営、中小、運営となっている（経営と中小が10点台、運営が11点台）。この3科目は受験生の得意・不得意の差がつきにくい科目といえる。
- 3) 法務と情報は、相対的に見れば、受験生の得意・不得意の差がつきやすいともつきにくいとも言えない（いずれも12点台）。

(4) 受験科目数別の平均点

図表6 受験科目数別平均点（データリサーチ）



※ 左から右にかけて科目数が少なくなる（7→1科目の順）。

- 1) おおむね、4科目受験から、受験科目数が減るに連れて平均点が上がっており、受験科目数が少ないほうが平均点は高い。ただし、1科目受験の場合、2科目受験よりも平均点が低くなる年度がある（R5～R7）。⇒1科目受験の場合、その科目の難易度に大きく影響を受けることが考えられる。
- 2) どの年度でも、6科目受験は、7科目受験よりも平均点が低い。

3. 1次試験合格者および科目合格者の分析

(1) 1次試験合格者の受験科目数

図表7 1次試験合格者の受験科目数

科目数	R3	構成比	R4	構成比	R5	構成比	R6	構成比	R7	構成比
0	2	0.03%	1	0.02%	2	0.04%	7	0.14%	6	0.14%
1	43	0.74%	64	1.28%	88	1.75%	56	1.12%	87	2.00%
2	229	3.92%	313	6.24%	338	6.73%	276	5.51%	363	8.36%
3	575	9.85%	597	11.89%	690	13.75%	655	13.08%	696	16.02%
4	763	13.07%	682	13.59%	763	15.20%	709	14.16%	655	15.08%
5	564	9.66%	505	10.06%	526	10.48%	507	10.13%	406	9.35%
6	375	6.42%	389	7.75%	464	9.24%	442	8.83%	345	7.94%
7	3,288	56.31%	2,468	49.17%	2,650	52.80%	2,355	47.03%	1,786	41.11%
計	5,839	100%	5,019	100%	5,019	100%	5,007	100%	4,344	100%

- 1) 1次試験合格者では、7科目受験者が最も多い。
- 2) 7科目受験者を除くと、おむね3～5科目の受験者の構成比が高くなっている。
- 3) 数は少ないものの、例年、0科目受験者（7科目免除者）が存在する。これは、例えば1年目に財務のみ40点を下回って1次試験不合格、ただし残り6科目が科目合格し、2年目に財務のみではなく中小を加えて、トータルでは1次試験不合格となったものの財務は科目合格したとする（財務のみにしていれば合格したことになる）。そして、3年目に1年目の6科目+2年目の財務=7科目の免除を申請し、3年目は何も受験せず（試験会場に行かなくても）に1次試験を合格したような場合である。ただし、この場合でも1次試験の受験手続（受験料支払等）は必要であり、また合格が100%保証されているとはいえない（合格発表日までは1次試験合格者の資格を得られない（2次試験にも進めないし、養成課程にも進めない）。⇒科目合格し、免除資格を得ているのにもかかわらず免除申請せずに受験する（合格科目をあえて再受験する）と、上記のように合格が1年遅れるリスクがある。

(2) 年度別科目合格者数等

図表8 科目別科目受験者数・合格者数等の推移

	R3		R4		R5		R6		R7	
	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b
経済	14,373	3,026	15,752	1,661	18,072	2,369	17,383	2,487	17,386	2,513
財務	15,386	3,446	15,660	2,087	17,362	2,480	17,108	2,584	17,200	1,437
経営	15,117	5,253	14,472	2,498	16,594	3,291	16,773	6,696	14,409	2,486
運営	15,118	2,796	16,029	2,580	16,854	1,470	17,417	4,663	15,467	2,229
法務	15,683	2,013	16,642	4,470	15,927	4,074	14,976	1,981	16,821	3,082
情報	13,695	1,457	16,305	3,018	16,834	1,919	16,699	2,603	16,424	2,333
中小	15,446	1,093	17,319	1,888	18,251	3,765	16,175	899	17,734	5,442

※ a : 科目受験者数、b : 科目合格者数

図表9 科目別科目合格率の推移

	R3	R4	R5	R6	R7	平均
経済	21.1%	<u>10.5%</u>	13.1%	14.3%	14.5%	⑤14.5%
財務	22.4%	13.3%	14.3%	15.1%	<u>8.4%</u>	⑤14.5%
経営	34.7%	17.3%	19.8%	39.9%	17.3%	①26.1%
運営	18.5%	16.1%	<u>8.7%</u>	26.8%	14.4%	③17.0%
法務	12.8%	26.9%	25.6%	13.2%	18.3%	②19.5%
情報	10.6%	18.5%	11.4%	15.6%	14.2%	⑦14.2%
中小	7.1%	10.9%	20.6%	5.6%	30.7%	④15.4%

※ ○数字は高い順。各年の網掛けは最高、下線は最低を表す。

- 1) 過去5年間で、科目合格者数の最多は6,696人（R6 経営）、最少は899人（R6 中小）。
- 2) 過去5年間で、科目合格率の最高は39.9%（R6 経営）、最低は5.6%（R6 中小）。
- 3) 基本的に、前年の科目合格率が最高だった科目は科目合格率が下がり、科目合格率が最低だった科目は科目合格率が上がる傾向がある。
- 4) 過去5年間の科目合格者数および科目合格率の標準偏差（バラツキ）を算出すると下表のようになる。

	経済	財務	経営	運営	法務	情報	中小
科目合格者数	437.8741	657.1878	1666.089	1058.338	1025.354	540.0837	1738.049
科目合格率	0.0350	0.0450	0.0958	0.0591	0.0596	0.0287	0.0944

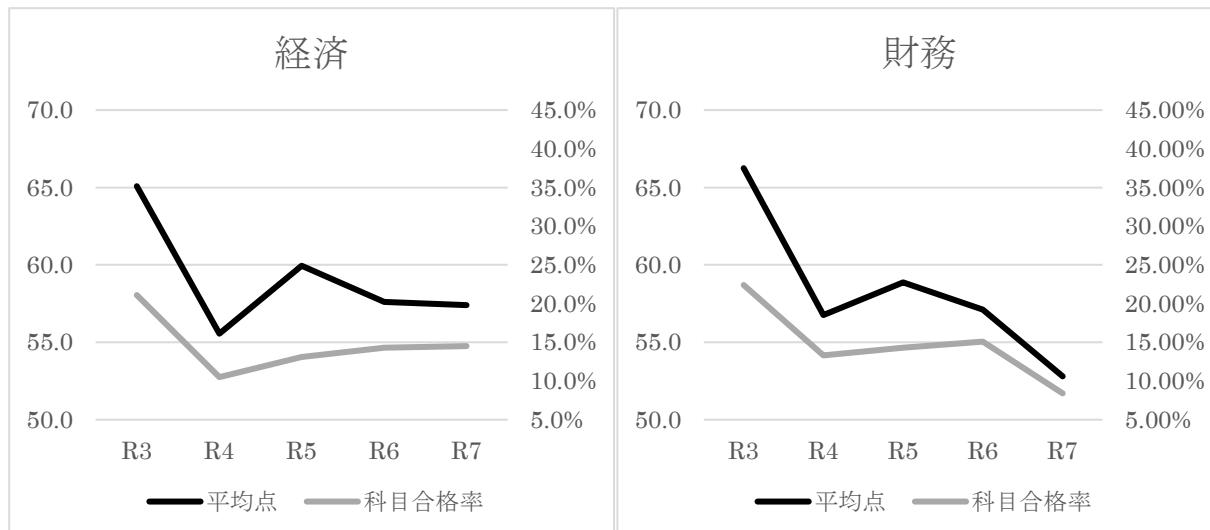
科目合格者数は中小のバラツキが、科目合格率では経営のバラツキがそれぞれ最も大きく、難易度の変動が大きい。一方、科目合格者数では経済のバラツキが、科目合格率では情報のバラツキがそれぞれ最も小さく、この2科目は相対的に難易度の変動が小さい。

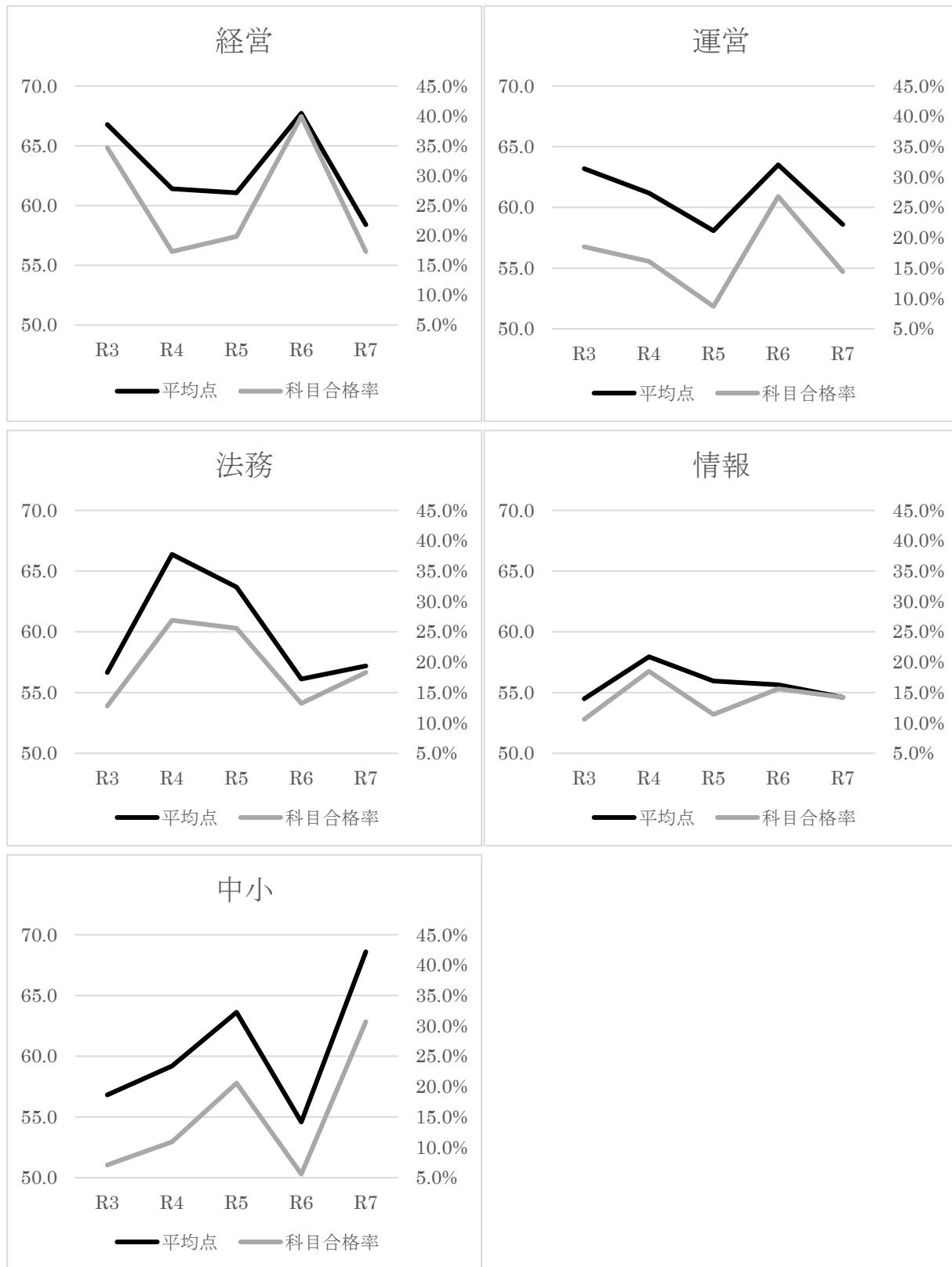
※ 科目合格者は、1次試験合格者を含まないため、必ずしも受験生全体のデータを正確に反映しているわけではない点に注意が必要である。

- 4) データリサーチの科目別の平均点の「過去5年間の平均」(図表2参照)と「科目合格率の平均」(図表9参照)を比較すると下表のようになる。順位に差が生じるのは、それぞれの母集団の差が原因と考えられる(データリサーチは、1次試験合格者を含め、ボーダーライン上の受験生が多い。それに對し、科目合格者は1次試験合格者を含まない)。平均点(データリサーチ)のほうが科目合格率より高い科目は運営と中小であり、この2科目は、1次試験合格者を含む層が含まない層に比べて得点を確保していると考えられる。

	平均点	大小	科目合格率
経済	⑤59.1	=	⑤14.5%
財務	⑥58.4	<	⑤14.5%
経営	①63.1	=	①26.1%
運営	②61.2	>	③17.0%
法務	④60.0	<	②19.5%
情報	⑦56.2	=	⑦14.2%
中小	③60.6	>	④15.4%

図表10 平均点(データリサーチ)と科目合格率の推移





- 1) おおむね、平均点（データリサーチ）と科目合格率は同じような動きを示している。

★★★R8の予想★★★

- 1) 合格者数・合格率とともにR3がピークであり、合格者数・合格率ともに漸減傾向にある。ただし、R3以降は毎年「全員正解」が2問生じており、「全員正解」が生じない場合、合格者数も合格率もさらに下がる（減る）可能性が考えられる。以下、特に再受験生に向けて、科目ごとの予想を述べる。
- 2) データリサーチの平均点・科目合格率とともに、前年の最高だった科目は翌年下がる傾向にある。その傾向からすると、中小の難易度が上がる可能性がある。中小は暗記色が強く、中小企業白書・小規模企業白書の年次が変わって新たに勉強する必要がある。この科目を免除できる方で、暗記に苦手意識がある方は、免除したほうが安全である。一方で、出題傾向が比較的はっきりしている科目でもあり、暗記に得意意識がある方であれば、追加する策も考えられる。
- 3) データリサーチの平均点・科目合格率とともに、前年の最低だった科目は翌年上がる傾向にある。その傾向からすると、財務の難易度が下がる可能性がある。この科目は計算を伴うため、得意・不得意がはっきりする科目であるが、難易度が高かったR7において60点を確保できた方であれば、R8に財務を追加する策も考えられる。一方で計算に苦手意識がある方は、難易度が下がる可能性はあるものの、免除できるのであれば免除したほうが安全である。
- 4) 情報は、R5以降、難易度が高止まりしている。R7は全員正解がなければデータリサーチの平均点・科目合格率ともに財務を下回った可能性が考えられ（同様に、R6も中小を下回った可能性がある）、SE等の専門家の方以外の方で免除できる方は免除したほうが安全である。
- 5) 経営は比較的難易度が低く、過去5年間では、R7を除いて平均点が60点台となっている。難易度が上がったR7でも平均点は58.4点であり、独特の言い回しがある科目であるが、得意な方であれば追加する策も考えられる。
- 6) 運営は比較的難易度が低いが、4年連続で「全員正解」が生じている状態であり、予想が難しい。「全員正解」を避けようとすれば、平易な問題が増える可能性があるが、一方で、出題者が「全員正解」をそれほど気にしていないのであれば、易化しない可能性も考えられる。この科目も、免除できる方は、得意な方以外は免除したほうが安全である。
- 7) 法務はR4・5と2年連続で平易だったこともあるが、そもそも難しい科目であり、免除できる方は免除したほうが安全である。
- 8) 残った経済は相対的に難易度が比較的安定している科目であり、得意な方であれば追加する策も考えられる。
- 9) 図表6で見たように、受験科目数が少ないほうが得点（平均点）は高くなる傾向がある。また、図表7で見たように、免除できるにもかからず追加した結果、合格が1年遅れる可能性もある。したがって、基本的には、免除できる科目は免除したほうが安全である。ただし、残り1科目で、その科目が非常に苦手だった場合は、最も得意な科目を追加するという策も考えられる。